

世代を超えて仲間になる

旧総和町の中学校区に分かれてママさんバレーをしていましたが、平成5年に学区制を撤廃するルール改正があり、全国大会を目指すため各中学校区のチームが合併して誕生した総和サルビア。

厳しい練習を重ね、結成10年目にして初めて全国大会出場を決めました。全国の強豪チームと比べると平均身長が低い小粒なチームですが、どこにも負けないチームワークで互角の勝負を繰り広げています。

みんなとバレーをしている時間は「母でなく、妻でもなく自分になれる時間」と話す神田さん。みんながニックネームで呼び合い、笑顔が絶えないチームの雰囲気はどこにも負けないチームワークの原動力になっています。



総和サルビア代表の岸田さん(右)と神田さん(左)。勝負に対する厳しさと持ち前の笑顔でチームを引っ張ります

総和サルビア

市内在住の20歳代～70歳代の女性が所属するバレーボールクラブ。クラブ員は約50人。

ママさんバレーボール大会の関東大会や全国大会に多数出場している。カトレア(総和北中学校区)、サルビア(総和中学校区)が合併し平成5年に結成。



武道を通して精神的成長を

拳の修行を行う武道としての面と、精神修養と人格形成を行う社会教育活動の側面を併せ持つ少林寺拳法。「護身」と「思いやりの心」を学び、体と心をバランスよく鍛えることを大切にしています。

勝ち負けにこだわらず、修行してきた成果をしっかりと演武することに重きを置いているのは、精神的成長を第一と考えているから。この経験が子どもたちの自信と勇気に繋がっています。

少林寺拳法をもっと知ってもらいたい。古河市が茨城国体のデモンストレーション会場に選ばれたことをきっかけに、さらなる広がりが期待されます。



少林寺拳法三和スポーツ少年団代表の関根さん(左)と総和スポーツ少年団代表の野口さん(右)。優しい笑顔には子どもの成長を思う気持ちが表れています



少林寺拳法

1947年、そうどうしん宗道臣氏により修業を通して勇気・慈悲心・正義感を育み、青少年をはじめとした個人々の精神的成長を目的に少林寺拳法を創始。戦後の創始ではあるが、剣道・柔道・相撲・空手などと共に日本九大武道の一つとされている。